

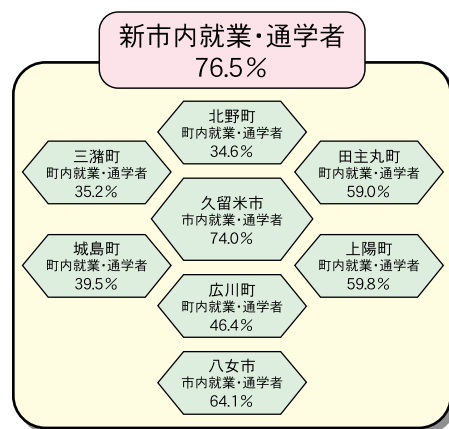
今、なぜ合併が必要か

今、市町村合併が求められる理由としては、次のようなことがあげられます。

生活圏の広域化への対応

私たちの暮らしや活動は、昔に比べ大きく広がっています。現在の市や町も誕生した50年前のままでなく、もっと広がったほうが私たちの暮らしや活動も便利になります。

●就業・通学の状況(平成12年国勢調査:15歳以上)



↓

その他市町村へ
就業・通学者
23.5%

※合併後では新市内で就業・通学する人の割合が76.5%となります。住居と就業・通学先が同一市内なら日常生活が大変便利になります。

皆さんの期待に応える体制づくり

私たちの暮らしや活動に必要な行政サービスは変わってきています。

例えば、少子高齢化が進む社会では、高齢者への福祉の充実などが求められています。そのためには、その仕事をする職員を確保することがますます重要になります。

また、豊かな暮らしを実感することができる社会をつくるためには、自分たちで考え、自分たちで実行する時代です。そのためには、足腰がしっかりした行政が必要です。

●総職員数に占める間接部門職員数

	久留米市	八女市	田主丸町	北野町	城島町	三潯町	上陽町	広川町	合計
総職員数(人)	1,889	320	168	118	100	116	76	144	2,931
うち間接部門職員数(人)	102	40	18	17	16	14	12	18	237
総職員に占める割合(%)	5.4	12.5	10.7	14.4	16.0	12.1	15.8	12.5	8.1

※間接部門職員とは、総務・企画・財政などを担当している職員です。

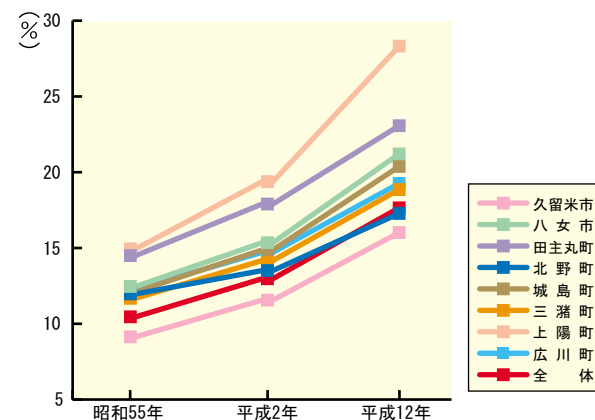
(平成14年4月1日現在)

●専任の職員配置状況

	久留米市	八女市	田主丸町	北野町	城島町	三潯町	上陽町	広川町	合計
都市計画(人)	8	3	0	2	0	2	0	5	20
国際化(人)	1	0	0	0	0	0	0	0	1
情報化(人)	4	0	0	0	0	0	0	0	19
女性政策(人)	2	0	0	0	0	0	0	0	2

(平成14年4月1日現在)

●高齢化率の状況



合併しなかったらどうなるの

一方、合併しなかったらどうなるのでしょうか。これまでも合併しないで暮らしてきました。身近なところに、気楽に話せる役場があったほうが良いという声があります。しかし、本当にそうでしょうか？国民一人あたりの借金が約550万円。家族4人いたら、2,200万円の借金があります。その借金があることを考えながら、これからの暮らしをどうするか考えた時に、なるべく少ない経費でサービスを得る工夫をすることが必要です。それが合併です。

今、新たな時代＝中核市へ

全国の市町村は、規模や行政能力にかかわらず、法律などによってほとんど同じような事務権限でした。しかし、できる限り住民の身近なところで行政を行うことができるようにするため、平成6年の地方自治法の改正により新しい都市制度「中核市」がもうけられました。

分権型社会の時代には、2市6町が合併し、中核市になることで、事務手続きの迅速・効率化や、きめ細かなサービスの提供など地域住民サービスの向上や独自のまちづくりが展開でき、県南地域の浮揚、地域住民の福祉の向上が図られます。